

I 2017（平成 29）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

「学生による授業評価アンケート」は、本学の教育内容や教育方法等の課題を明確にし、質的な向上を図ることを目的に、2008（平成 20）年度から継続的に実施されている。

2. 実施方法

1) 実施期間

前期は、2017（平成 29）年 7 月 3 日(月)～7 月 27 日(木)、後期は、2017（平成 29）年 12 月 8 日(金)～2018（平成 30）年 1 月 26 日(金)に実施した。なお、実施期間外に開講される集中科目等については、各科目の開講期間に実施した。

2) 対象科目・調査対象者

対象科目：2017（平成 29）年度に学部にて開講されている授業科目
(一部の学外実習科目等を除く)

対象者：対象科目の履修生

3) 実施科目数・回収率

開講所属ごとの実施状況は下のとおりである。

開講所属	対象科目数 (a)	授業評価アンケート実施数 (b)	実施しなかった科目 (a-b)	実施率	授業評価アンケート実施科目回収状況		
					対象科目履修者数	回収数	回収率
共通教育科目	199	199	0	100.0 %	5,269	4,030	76.5 %
現代人間学部共通科目	2	2	0	100.0 %	154	142	92.2 %
英語英文学科専門教育科目	200	188	12	94.0 %	4,260	3,456	81.1 %
人間文化学科専門教育科目	102	99	3	97.1 %	1,843	1,493	81.0 %
心理学科専門教育科目	12	12	0	100.0 %	690	573	83.0 %
こども教育学科専門教育科目	22	22	0	100.0 %	738	648	87.8 %
福祉生活デザイン学科専門教育科目	20	20	0	100.0 %	448	351	78.3 %
生活福祉文化学部専門教育科目	157	155	2	98.7 %	2,960	2,611	88.2 %
心理学部専門教育科目	126	122	4	96.8 %	3,692	2,847	77.1 %
資格科目等	52	50	2	96.2 %	857	719	83.9 %
計	892	869	23	97.4 %	20,911	16,870	80.7 %

4) 調査内容 (学部)

最初に、回答者の属性 (学年・所属学部 (学科)) を尋ね、次に当該科目に関して「授業の状況」「学習の状況」「学習成果 (社会人基礎力)」「授業形態項目」「独自設定項目」について尋ねた。設問数は、選択式 19 問 自由記述 2 問である。

「授業形態項目」は、授業形態 (講義、演習、実習、卒業研究) によって設問が異なる。調査項目の一覧は以下のとおりである。

当該科目に関する調査項目と回答形式

(1) 調査項目

授業の状況

- (1) 授業はシラバス (目標・内容・方法など) に沿った内容であった
- (2) 授業中に使う教材 (テキスト・配布資料など) は適切であった
- (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた
- (4) 教員の話し方は、わかりやすかった
- (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた
- (6) 授業は興味関心の持てる内容であった
- (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった

学習の状況

- (8) 授業の内容は理解できた
- (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった
- (10) この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学習しましたか
〔5(4 時間以上)、4(2~4 時間未満)、3(1~2 時間未満)、2(30 分~1 時間未満)、1(30 分未満)、0 (0 分)〕

学習成果 (4 年間で育てたい力 ND6) 本学では卒業時に身につけておくべき 6 つの力「ND6」を定めています。

- (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した
- (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した
- (13) この授業で、「言語力」が向上した
- (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した
- (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した
- (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した

授業形態項目 (講義)

- (17) 教員は、私語の注意など受講マナーを守らせるよう配慮していた
- (18) 黒板の字や視聴覚教材 (パワーポイントなど) は見やすかった
- (19) 授業の進むペースは適切であった

授業形態項目（演習）

- (17) 発表や課題提出に対して教員から適切なフィードバックがあった
- (18) 教員とコミュニケーションがとれた
- (19) 授業中に質問や発言を積極的にした

授業形態項目（実習）

- (17) 実習はやりがいがあった
- (18) 授業中に質問や発言を積極的にした
- (19) TA などのサポートが役に立った

授業形態項目（卒業研究）

- (17) 卒業研究の作成過程・出来栄に満足している
- (18) 指導教員から適切な指導を受けた
- (19) 卒業研究作成の過程で、多くの学びがあった

独自設定項目

- (20) 担当教員が、独自に設定した項目

自由記述

- ・この科目（授業）について「よかった点」を記入してください。
- ・この科目（授業）について「改善すべき点」を記入してください。

(2) 回答形式

評価項目(1)～(20)については、以下の6件法で回答させた。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない
- 0：該当しない

5) 実施手順

授業評価アンケートの調査票は、学事課および研究・情報推進課より各科目の担当教員に配付した。実施期間外の集中科目等は、開講にあわせて研究・情報推進課より配付した。教員は、学生に対しアンケートの主旨等を説明したのち調査票を配付した。回答済みの調査票は、担当教員に指名された学生の代表が回収し、学事課へ提出した。

例外的な取り扱いをした科目は以下のとおり。

- ・「ノートルダム学Ⅲ」と「卒業研究」は、「ノートルダム学Ⅲ」の授業（12月13日、12月20日）において、学事課および研究・情報推進課の職員調査票を配付、回収した。

6) 結果の集計

調査票の印刷・封入作業および集計処理は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

7) 集計結果の教員への通知

科目別集計結果は、前期実施分は2017（平成29）年9月中旬に担当教員に配付した。後期に担当授業のない非常勤講師については郵送にて配付した。

後期実施分は、専任教員には2018（平成30）年3月に配付し、非常勤講師には郵送にて配付した。

8) 集計結果の公表と教育改善への活用

科目ごとのアンケート集計結果（自由記述を除く）は、学内 Web に掲載した。

各科目の集計結果が担当教員返却されたのち、教員は集計データや自由記述項目に記載された内容をもとに授業について点検をし、改善に向けた今後の取り組みについてフィードバックを行った。教員によるフィードバックの内容は、2013（平成25）年度より学内 Web にて公開している。

全学の教育改善への活用については、次のとおり実施した。

- 1) 科目別集計結果、全体集計結果を、FD 委員会委員および学部長、学科主任が閲覧し、各学科での授業の改善の検討材料とした。
- 2) 教務課に授業評価アンケートの結果を伝達し、その内容が教務委員会において報告された。
- 3) 課長会において、授業評価アンケートから抽出した、主に設備面の問題点を関係部局へ伝達し、対策が可能な範囲で配当教室や設備整備の対策がなされた。